



森林整備のボランティア活動で 郷土の自然の大切さについて学ぶ

長野県
株式会社サンティア
「地球温暖化や水害防止に向けた
『サンティアの森づくり』」事業



株式会社サンティア
代表取締役社長
矢崎真治さん



里親となった森林の整備資金の寄付や草刈りなどを実施

長野県の「森林の里親促進事業」に
賛同して南箕輪村で森林整備

地域社会からの理解と信頼がなくては成立しないパチンコ・パチスロホール業界において、いまや社会貢献活動は欠かすことができないものだが、従来からある寄付や資金援助に加え、最近では自ら体を動かし、地域のために汗をかくボランティア活動が増えつつある。長野県内でアミューズメント事業、ホテル事業を営む株式会社サンティアでは、長野県が推進している「森林の里親促進事業」の趣旨に賛同し、2013年から協力企業の一つとして参加している。

この事業は、全面積の約8割を森林が占める長野県が森林の荒廃を阻止する目的で行っているもので、企業が里親となり、森林を所有する県内の集落が里子となり、企業と地域が交流を深めながら森林整備を進めるというものである。里親となった企業は森林整備の資金や労働力を提供することで、地球環境保全に貢献する企業というイメージを広くアピールできるほか、里子となった地域の施設や豊かな自然をレジャーの場などとして活用できるというメリットがある。

サンティアが里親となっている森林は、長野県上伊那郡南箕輪村の村有林で、その整備資金として毎年、12万円を寄付するとともに、同村有林内の経ヶ岳登山道大泉ダムルート付近を春と秋の年2回、若い従業員が中心となって草刈り、枝打ちなどの作業を実施している。なお、作業にあたっては、NPO法人森のライフスタイル研究所の指導



指導を受けながら森林整備作業を進める



急斜面での作業も多く体にこたえる

員からの指導を受けているほか、同法人、上伊那郡地方事務所（林務課）、南箕輪村産業課、同村内のボランティア団体「経ヶ岳友の会」と連携を密にして取り組んでいる。

**若い従業員が中心となって深い森で
下草刈りや枝払い作業に取り組む**

作業には毎回、サンティアの若い従業員を中心に10名前後が参加するほか、上記の連携先の人々も加わり、総勢30名ほどになるという。まず、経ヶ岳登山道大泉ダムルートに集合し、徒歩で30分ほどかけて作業場所へと向かうが、深い森であるため、そこにたどり着くのも一苦勞。また、急斜面での作業となるため、刈り払い機などは使わず、カマやノコギリなどを用いて人手で行う。昼食をはさんで、午前と午後に2時間ずつの作業となるため、相当な体力と気力を必要とする。

普段は室内で働くことが多く、自然に触れる機会が少ない従業員にとって、深い森林での作業は容易ではないが、かえって新鮮であり、また、作業を行った分だけは確実に成果が得られることから達成感も大きいという。昨年は作業活動10回目を記念して、南箕輪村主催でバーベキュー親睦会を開催してもらい、総勢35名が参加したという。

作業場所はトレイルランニングコースや地元の中学校のマラソンコースなどにも近く、南箕輪村からは目立つ場所に「サンティアの森」の看板を設置したいという申し出があり、年内に設置予定とのこと。そうなればさらに、作業に参加した従業員にとって愛着がわく場所になるに違いない。

県が行う事業に参画する形で実施している森林保護活動だが、それにボランティアとして参加することで、郷土の自然の豊かさを見つめ直すことにつながるだけでなく、近年問題となっている温暖化や水害を考えるきっかけにもなるだけに、教育効果の高い社会貢献である。